

3. Pythonの基本文法

□ 概要

- Pythonの基本文法を学びます。

□ 学習内容

- 3.1 コメント
- 3.2 インデント
- 3.3 変数
- 3.4 データ型
- 3.5 リテラル
- 3.6 文字列



3.1 コメント

- Pythonでは、#以降の内容は全てコメントとして扱われます。
- 複数行のコメントを記述したい場合は、`"""`(3連の2重引用符) または、`'''`(3連の1重引用符) でコメントを囲みます。

3.2 インデント

- Pythonはインデントによって処理の範囲を定義することがルールとして決まっています。
そのため、適切にインデントを使い、
ソースコードを整形しないとエラーになります。
インデントされた範囲をブロックといい、
特に分岐や繰り返し処理などのブロック構造を表す場合に使用します。

3.3 変数

□ 変数とは、簡単に言うと「値に名前をつけて入れておける箱」のようなものです。

変数を利用することで、同じ値を複数の行で使用することができるようになります。

3.4 データ型

□ Pythonのデータ型は大きく分けて数値型とコンテナに分ける事ができます。

□ 数値型

データ型	意味	例
int	整数	-2, 0, 10
float	浮動小数点数	-1.25, 0.0
complex	複素数型	3+4j, 3.0+4.0j, 3J

□ コンテナ型

データ型	意味	例
str	文字列	'apple','orange'



3.5 リテラル

- プログラムのソースコードに、直接記述された値のことをリテラルといいます。
- 文字列リテラル
 - 文字列リテラルは、対象となる文字列を ‘(シングルクォーテーション) または、“(ダブルクォーテーション) で囲う。
- 数値リテラル
 - 数値リテラルは、対象となる値をそのまま記述する。

3.6 文字列

- 改行などの特殊な文字列を記述する際には、エスケープシーケンスを使用します。
- 複数行の文字列
 - シングルクォーテーションまたはダブルクォーテーション3つで囲むと、複数行の文字列を作成することができます。
- raw文字列
 - 文字列の先頭に「r」または「R」をつけると、エスケープシーケンスが無効になります。
ファイルパスを表すような場合に使用します